

CHIKI
TANKYU
PROGRAM



 全国高校生体験活動顕彰制度

地域探究プログラム

報告書



 National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

ご挨拶



独立行政法人
国立青少年教育振興機構 理事長

鈴木 みゆき

この全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」は、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生の育成を目的とし、高等学校の「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を用いて学習を深めるプログラムです。（プログラムの詳細は次ページをご参照ください。）

およそ3年間の創設期間を経て、今年度本格実施を迎えました。新型コロナウイルス感染症の影響により、世界が未曾有の混乱に直面している中、地方ステージや全国ステージではオンラインを導入するなどの工夫を行いながら開催することができました。全国10カ所で開催されたオリエンテーション合宿やその後の高校生の実践活動にご協力をいただいた地域の皆様、地方ステージ・全国ステージにて評価をいただいた委員の皆様、その他関係者の皆様、そして何よりも、参加してくれた高校生に深く感謝申し上げます。

このプログラムを通じて、多くの高校生と地域の「つながり」や「協働」が生まれました。高校生が地域課題を「自分ごと」として捉え、それに向き合うことは、高校生自身の学びだけでなく、地域にとっても非常に有意義なことであることを改めて認識しました。また、本プログラムは、学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を目指すうえでも非常に有効な取組みだと考えています。当機構は、今後も高校生が「探究」を学び、新たな社会の担い手として自身の可能性を伸ばすことを支援していきます。

最後に、今回このプログラムに参加してくれた高校生のみなさんにとって、活動で得た学びや経験は未来を切り開いていくうえで、貴重な財産となることでしょう。先の見通しにくい現代において、みなさんが主体的に社会と関わり、よりよい人生を歩んでいくことを祈念しております。



全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長
東武鉄道株式会社取締役専務執行役員

関口 幸一

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、全国各地でオリエンテーション合宿が開催され、オンラインを導入した形で全国ステージまで無事に開催できましたこと、大変うれしく思います。オリエンテーション合宿に参加し、地域での活動を経て地方ステージ・全国ステージにエントリー・出場してくれた高校生のみなさんに敬意を表するとともに、開催に協力をいただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。

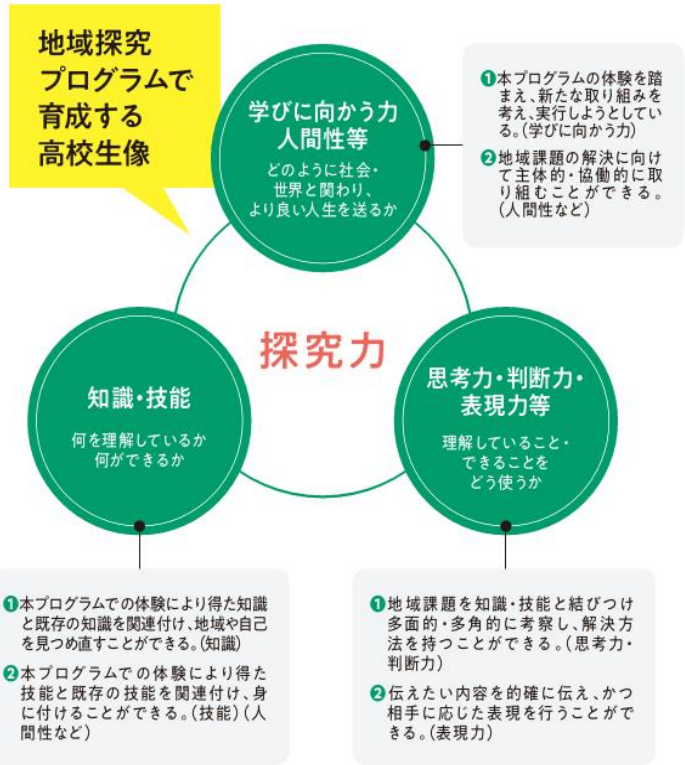
全国ステージはじめ地方ステージでも全国各地の高校生から、高校生らしい素晴らしい活動・取組みが発表されました。「探究」の学びを通じて、自分自身や仲間たちと向き合い、試行錯誤を重ねて実施した活動の中には、地域だけでなく日本や世界全体に共通した課題の解決に向けた取組みもありました。今回、この「地域探究プログラム」に参加したみなさんには、若いリーダーとして、仲間・学校・地域の中で、自身の持っている問題意識を回りの人たちに広め、さらに社会にアピールし、少しずつでも地域や世界がよりよくなるよう、これからも頑張っていたいただきたいと思います。



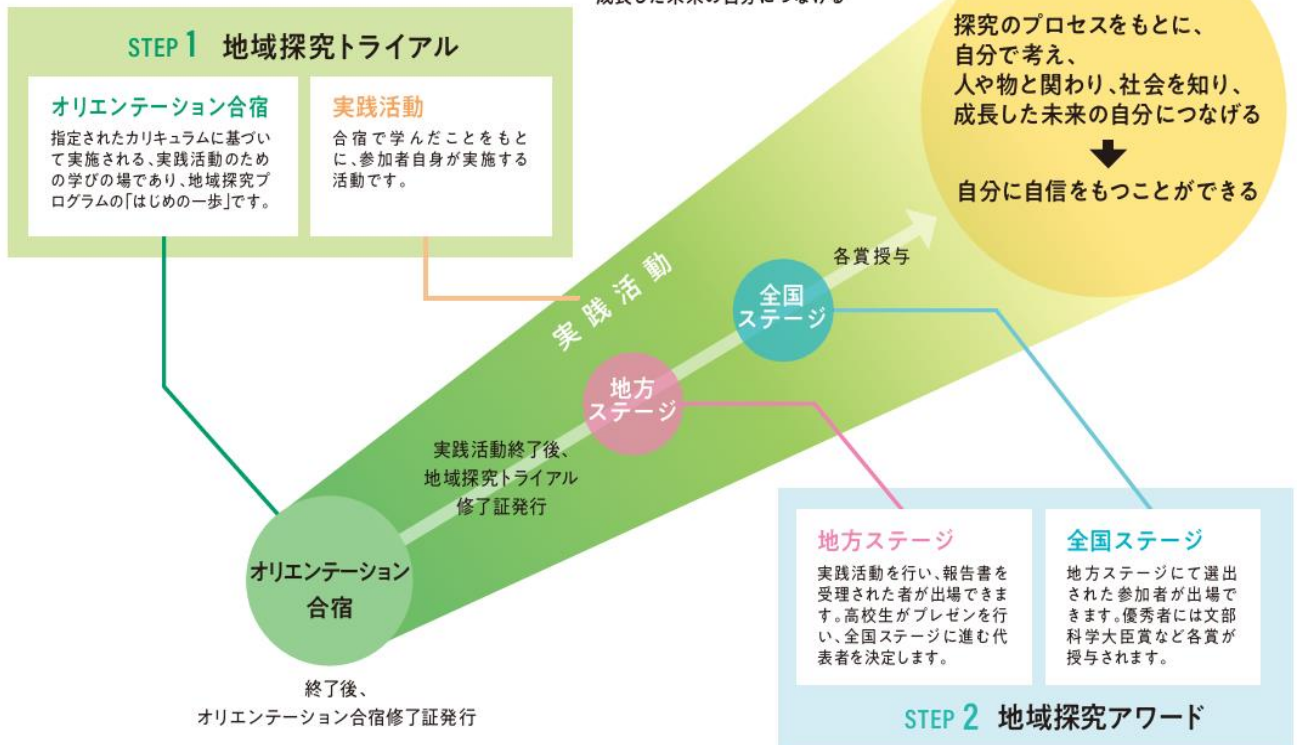
全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」について

「総合的な探究の時間」 の学びをサポート

本制度では、平成30年度告示の学習指導要領で示された「資質・能力の三つの柱」を軸に「地域探究プログラムで育成する高校生像」を整理し、これに基づいたカリキュラムを作成しています。カリキュラムを通じて「探究のプロセス」を学び、①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現の4つのプロセスを体験できるよう構成されています。また、カリキュラム1コマの時間も授業時間にあわせて50分とするなど、授業へ位置づけやすい工夫をしています。カリキュラムの実施にあたっては、講師となる地域活動の実践者の紹介や連絡調整、施設職員による先生方の指導補助など、先生方の授業をサポートします。



地域探究プログラムの構成





令和2年度 全国ステージ結果

部門	評価結果	氏名	所属	活動のタイトル
個人部門	文部科学大臣賞	芹澤 愛香	不二聖心女子学院 高等学校	裾野市アトラクションウォーキング ～ゴミ拾いをしながら、裾野市中央公園を探検しよう!～
	国立青少年教育振興機構 理事長賞	酒井 美緒	福島県立 光南高等学校	ドライフラワーが魅力的なワケ ～仕事の在り方とドライフラワーが伝える本当のメッセージ～
グループ部門	文部科学大臣賞	池田 敦耶	愛媛県立 長浜高等学校	長浜ゴミ0プロジェクト ～海辺に並ぶ10本のカワイのぼり旗でゴミを無くそう～
		川内 誠也		
		松島 小晴		
		丸口 俊輔		
		村橋 青空		
	国立青少年教育振興機構 理事長賞	山本 柚寿	加藤学園暁秀 高等学校	沼津仲見世商店街イコノバ! プロジェクト
		伊藤 歩南	静岡県立 沼津商業高等学校	
	全国高校生体験活動 顕彰制度委員会 委員長賞	田中 志音	北海道 日高高等学校	日高の自然を生かしたアクティビティ
		齊藤 響		
		角田 航一朗		
	国立青少年教育振興機構 特別賞	坂下 碧	岩手県立 雫石高等学校	富士のお茶売ります PART2 琥珀糖で軽トラ市を盛り上げよう (雫石町をアピール)
		袖林 愛璃		
高橋 李恩				
福田 愛沙				



オリエンテーション合宿で茶摘み体験



実践活動でのドライフラワー作り



オンラインを使った発表



全国ステージ集合写真



私のヒストリー

個人部門
文部科学大臣賞受賞

不二聖心女子学院高等学校
芹澤 愛香 さん

オリエンテーション合宿



講師を含めグループワーク



放置竹林での伐採作業

実践活動



子供会の小学生に地元の魅力を発信



子供たちと一緒に散歩

地方ステージ



堂々とした発表



評価委員からの質疑

全国ステージ



発表の様子



結果発表時の様子

グループ部門
文部科学大臣賞受賞

愛媛県立長浜高等学校
池田 敦耶 さん 川内 誠也 さん 松島 小晴 さん
丸口 俊輔 さん 村橋 青空 さん

オリエンテーション合宿



講師と意見交換



ディスカッションの様子

実践活動



ゴミの量の調査



公園へののぼり旗の設置

地方ステージ



発表の様子



発表の様子

全国ステージ



発表の様子



結果発表時の様子



私のスタディ(個人部門)

裾野市アトラクションウォーキング

ゴミ拾いをしながら、裾野市中央公園を探検しよう！

芹澤 愛香



活動概要

私が小学生のころに所属していた子供会の地域の小学生たちを招待し、裾野市内の中央公園までウォーキングをし、重要文化財 旧植松家住宅の見学やゴミ拾いを行いました。この活動の柱は二本立てです。まず一つ目は、裾野市内の魅力を見つける事です。裾野市は比較的ポイ捨てが目立つことはなく、中央公園等は業者が毎朝清掃を行っていることもあり、とてもきれいに保たれています。また、中央公園内にある旧植松家住宅は国指定の重要文化財で、とても大切にされている昔ながらの建造物です。私は市内の小学生たちに裾野市に隠された身近だけど意外と気づかない魅力を伝えたいと思いました。

二つ目は、地域の人々との交流です。子供会の衰退、またコロナの感染拡大の防止のため、特に今年度に入ってから、地域の交流の場が急激に減りました。そこで私は、コロナの感染対策を十分に行い、屋外での活動にするなどの工夫をしてイベントをしたいと考え、この活動を行いました。

なぜこのテーマに取り組みましたか？

私は小学生の頃、子供会のイベントに参加していました。そしてそれが大好きでした。しかし近年、小学生の保護者がイベントを企画、運営をする暇がないなどの理由で、子供会は衰退してしまってきています。

私は小学生たちが地域の人と交流するための場を作ることができないだろうか、と中学生の頃から考えていました。今まで行動に移せなかった理由は私には大人の方々と事務的な連絡をしたりイベントを企画したりする力がなかったからです。高校生になって、青少年交流の家でボランティア研修を受け、今回地域研究プログラムのオリエンテーションに参加させていただくことができました。3日目の発表の準備を進めていくうちにだんだん楽しみになってきてこれは絶対に実践して成功させよう！と決め、この活動に取り組みました。



当初、どのような仮説を立てましたか？

私はこの活動を通して、このコロナ禍の中でも地域の人たちが交流できる場を作ることを目指していました。それを成功させるために、招待するのは子供会の小学生たちになりました。また、イベントのメインの活動はすべて屋外で行うためにウォーキングにしたらコロナの感染も防ぎつつ、地域の交流の場を作れるのではないかと仮説をたてました。

ただ小学生と市内を歩くだけではウォーキングをするだけになってしまいます。そこで思いついたのは、青少年交流の家のボランティア活動で身に着けた知識を活かす事です。ボランティアの活動では、企画案を作成する力が身に付きました。私が小学生を招待する理由の一つは、地域の小学生たちに学校外でも交流してほしいからです。そこで私は、アイスブレイクをすることで、例えば初めて会う子がいたり、あまり話したことのない友達がいる場合にも、みんなで楽しくウォーキングができるのではないかと仮説を立てました。

当初の仮説から変更した点はどこですか？

当初は市内の魅力を発見する、地域交流の場を作る、という二本柱で考えていましたが、企画、計画の準備段階から手伝っていただいた杉山さんのアドバイスで、人材育成も取り入れられました。これが一番大きな変更点だと思います。

行ったことは主に、小学生参加者の最高学年の子たちには私たちスタッフの仕事を手伝ってもらうということです。今回参加者の中の最上級生は6人いました。6人もいるためみんなに仕事を割り振れば、人材育成ができると仮設しました。消毒係やゴミ袋の配布係、また公園への移動中、公園での自由時間等には小学校低学年の子たちの世話をしてもらおう頼みました。

実際活動を終えて、このように大人のスタッフが多かったとはいえ、低学年の参加者への配慮は少し怠っていたと感じました。つぎにこのような企画をする機会があれば、班分けをして、各グループにリーダーをつけて低学年のお世話を徹底したいと思います。

仮説で工夫した点はどこですか？

計画表を考える過程で私が一番こだわった点は、アイスブレイクです。参加者の中には初対面同士の子たちもいました。今回のイベントを通して参加者同士に仲良くなってもらいたかったです。私は何度か御殿場青少年交流の家の事業に参加させていただいたため、アイスブレイクは馴染みのあるものでした。今回初めてイベントの企画というものを行いました。交流の家のボランティアの方々に今までしてもらってきたことを思い返しなが、楽しい交流の場にできるよう、考えました。

また、計画したことを協力者に的確に共有するための工夫もしました。その一例として、私は法人ボランティアで計画表を先輩の方々と作成したときのことを思い出しなが、この企画専用一人で作った新しいものを作りました。アイスブレイクのゲームの種類やその説明、各プログラムの詳細や注意点をまとめた冊子を、自分用、協力してくださった方々用に作ったことは、この活動を成功させる上で大事な土台になりました。



OR合宿を通じて理解したこと、 できるようになったことは 何ですか？

オリエンテーションでは、価値のある一歩を踏み出せた気がします。3日間のプログラムを通して、特に心に残ったことは、「高校生にできること 高校生だからこそできること」という言葉です。

私はこのオリエンテーションに参加する前から既に取り上げたい地域の課題がありました。それは子供会の活動の衰退です。中学生の頃からなにかイベントを企画したいと思っていたのですがなにも動けず2年以上たっていました。そんな時見つけたこの事業では、同じ参加者と意見を出し合っ、協力する場面も多く、たくさん学びがありました。

講義の中では、実際に地域づくりの実践活動をされた方々のお話を聞く機会がありました。同じ高校生が実際に行った活動は、とても興味の湧くものばかりで面白かったです。また、講義の中の「高校生の発想はスゴイ 高校生の取組は注目されやすい 発信力がある」という言葉にハッとさせられ、これはわたしもなにかアクションを起こさねば!と強く思いました。オリエンテーションを通して一番私が成長できたと感じたことは、グループ活動でのまとめ役ができるようになったことです。私は今まで学校でのグループ活動で、意見は出すけれどそれを客観的にまとめるということをしてきませんでした。しかしオリエンテーションでは丁寧に一歩ずつ 課題の設定→情報収集→整理→まとめ→実践 という過程を学び、練習ができ、プログラム最後には個々の発表もあり、自分で物事を考えて人に伝える自信が付きました。

OR合宿で理解したこと、 できるようになったことを、 実践活動でどのように 活かしましたか？

オリエンテーション合宿で、物事を客観的に捉える、また、分かりやすく発表をする方法を学びました。この知識を活かして、実際に実践活動をする上で、協力していた方に自分の意見やお願いしたいことを正確にはきはきと伝えることを大切にしました。すべて自分の思うとおりに実現することが可能なわけではなく、悩むことも多かったです。しかしめげずに自分の中にある強い思いは常に相手に伝え、最後には大人の支援者の方と私たち高校生とのお互いが納得のいくイベントの構成にできたことを誇りに思います。

2つ目に、挨拶をしっかりとやる心掛けました。イベント当日に使用した公民館や中央公園の使用届を提出する際や、助けていただいた大人の方への挨拶は、必ずしました。また、オリエンテーションで教わった、こまめな報告、連絡、相談をすることも常に念頭に置いて、自分一人で勝手に動かず、地域の人々と「協力」することを大切にできました。



実践活動を踏まえ、今後、 どのように社会・世界と関わり、 より良い人生を過ごしますか？

今回この活動を成功させることができたのには、大人の方々の大きな支えがありました。地域の人々とのつながりを大切にしていたこの企画ですが、決して一人ではできなかったのだ、協力スタッフや子供会の大人たち 学校の友達が協力してくれたから実現できたのだと強く思います。この経験から、人と協力して何かをやり遂げることへの自信ができました。この活動で取り上げた地域の課題の一つに、「子供会の衰退」がありましたが、これは私の地域だけでの問題ではありません。全国的に地域交流の場は減ってきていると母が教えてくれました。今回のイベントの当日には、区長さんがボランティアで運営を手伝いに来てくださいました。区長さんは、イベントが終わると「またこのようなイベントをぜひ企画してね」と言ってくださいました。子供会の活動があまり行われなくなってきた理由の一つは、小学生の保護者達は働いていて企画をして地域の子供たちの世話をしている余裕がないからだそうです。ちゃんと考えて、高校生らしい活動、高校生でも出来る活動に設定すれば、負担も大きすぎにはなりません。私はこれからも時間があるときには地域の大人に協力してもらいながら、地域交流の場を作る活動を、定期的に行きたいです。

本来コロナウィルスが流行していなければ私は今フィリピンへ留学していました。しかし今こうして裾野市で日々生活していて、もっとみんなにこの地域のことを知ってもらいたい、世代を越えて周りに住む人たちで仲良くなってもらいたい、という気持ちが芽生えてきました。大好きなこの町の交流の場、意外と気づかない魅力を町の仲間と未来に継承していけるよう、小さな活動をコツコツ重ねていきたいです。高校生のアクションは、注目されやすい、というメリットを存分に生かし、これからも今だからこそできることを見つけていろんなことに挑戦していきます。



私のスタディ (グループ部門代表)

長浜ゴミ0プロジェクト

海辺に並ぶ10本のカワイイのぼり旗でゴミを無くそう

松島 小晴



活動概要

大洲市長浜長浜湾緑地(公園)に、10本ののぼり旗を設置し、1週間おきに旗の設置・撤去を繰り返し、ゴミの量を分析して旗の効果を検証した。

調査期間には、毎週月曜日に公園内のゴミを回収し、長浜婦人会が回収したごみと合わせて、燃やすごみ、プラスチック、アルミ缶、スチール缶、ビンに分類してその質量を計測した。また、後の1週間が「のぼり旗あり」の場合には旗を設置し、「のぼり旗なし」の場合は旗を撤去した。

のぼり旗は、10本それぞれ違うデザインとなっている。のぼり旗には、長浜を舞台にした漫画「熱帯魚は雪に焦がれる(通称:はにがれ)」の主人公が描かれている。そして、主人公は「長浜をゴミのないきれいな街にしたい」という想いを優しく語り掛けている。このメッセージは私たちが考え、作者の萩莖まこと様から提供いただいたイラストとともにレイアウトを考え、のぼり旗にデザインした。

なぜこのテーマに取り組みましたか?

調査対象地域である大洲市長浜長浜湾緑地は約2.29haの広大な敷地で、伊予灘に面して海に突き出たような公園である。視界は360度海や山に囲まれていて見晴らしがとても良く、公園の外周には釣り専用の護岸が整備されており、休みの日にはたくさんの釣り人でにぎわう。その他、多目的広場、遊歩道、休憩所、子どもたちの遊べる遊具などもあり、家族連れが多い。そのため、以前からごみのポイ捨てが多く、地元住民の悩みの種であった。観光客に少しでもきれいな長浜を楽しんで欲しいと、地元婦人会の方々が交代で毎日清掃活動をするので、現在何とかきれいな状態が維持されている。

私たちが地域の方々を対象に「地域が抱える課題」をヒアリングしたところ、このような課題があることを知った。そこで、捨てられるごみを減らし、きれいな長浜を維持したいとの思いでこのプロジェクトを企画した。最初はゴミ捨て防止ポスターなどの制作を考えていたが、長浜や長浜高校をモチーフにした漫画「熱帯魚は雪に焦がれる」の作者にイラストの提供を相談したところ快諾を受け、コラボ企画として長浜への集客も期待している。



当初、どのような仮説を立てましたか?

以下の日程でのぼり旗を設置した。

日程: のぼり旗の有無	
10月27日~11月9日	あり 11月10日~11月16日 なし
11月17日~11月23日	あり 11月24日~11月30日 なし
12月1日~12月7日	あり 12月8日~12月14日 なし
12月15日~12月21日	あり

*11/21(土)、12/19(土)は、長高水族館の一般公開でも展示した。

のぼり旗を立てていない週はこれまでと変わらない量のゴミが回収され、立てた週はのぼり旗による抑止効果でゴミの量が少なくなると予想する。そして、これを継続するうちに、のぼり旗のない時もあるときも全体としてごみの量が減るのではないかと予想した。

当初の仮説から変更した点はどこですか?

当初は以下の日程でのぼり旗の設置を予定していた。

日程(変更前): のぼり旗の有無	
10月20日~10月26日	なし 10月27日~11月2日 あり
11月3日~11月9日	なし 11月10日~11月16日 あり
11月17日~11月23日	なし 11月24日~11月30日 あり
12月1日~12月7日	なし 12月8日~12月14日 あり

しかし、この日程では長高水族館一般公開日ののぼり旗がなく、水族館と一緒に見たいという声が多かった。また、11月3日、23日の祝日も旗がないため、上記の通り日程を変更した。

仮説で工夫した点はどこですか?

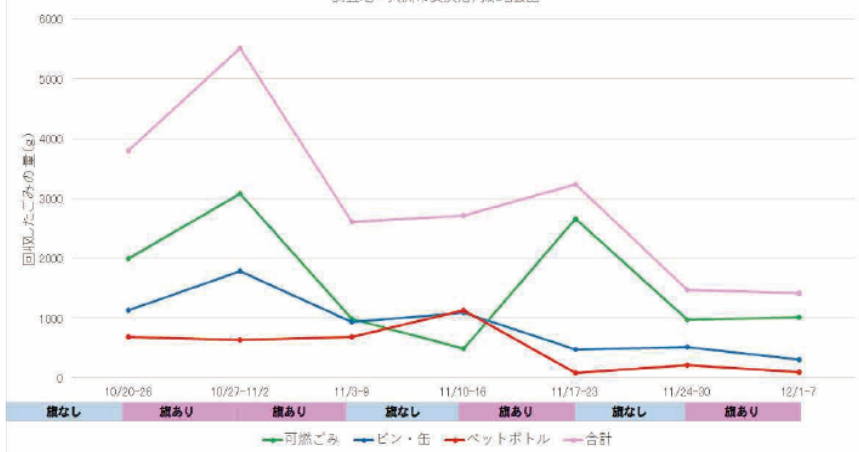
去年はポスターでの実施だったが、丈夫でさらに目立つのぼり旗でごみゼロの呼びかけをすることにした。長浜高校を舞台にした「熱帯魚は雪に焦がれる」の作者萩莖まこと様からいただいた原画を自分たちでデザインし、ストーリーの構成もNo.1からNo.10まで考え作成した。特に主人公たちの表情と自分たちで考えた言葉を組み合わせることで長浜の現状や自分たちの思いを強く訴えかけられるのぼり旗にした。「まさかあなたがごみを捨てるなんて」や「あなたの手はごみを捨てるためのものじゃないよね」など、思わず誰もが立ち止まって自分の行動を見直すような言葉掛けを考えた。のぼり旗を立てる場所も通人が多く、海との景色も抜群な場所に並べた。

婦人会の方達にもご協力をいただいて、毎朝拾ったごみをしましロッカーに保管しておき、そのごみを毎週月曜日に自分たちで測量・分析するなど、婦人会の方たちと連帯して取り組んだ。ごみの種類を「可燃ごみ」・「ペットボトル」・「アルミ缶」・「スチール缶・びん」に分けて、重さだけでなく個数も数えて分かりやすくした。一週間分のごみの量をそれぞれ分かりやすくするように、グラフに図式化した。

また、のぼり旗の近くにホワイトボードを設置し、どこから訪れたかをアンケートで調査し、のぼり旗に対するメッセージを自由に書いてもらうメッセージボードを設置することで観に来た方々の思いが見えるようにした。

のぼり旗の有無と回収したゴミの量の推移

調査地：大洲市長浜海岸緑地公園



OR合宿を通じて理解したこと、できるようになったことは何ですか？

はじめ自分たちの班は計画を立てられずにいて、一日目の半分ぐらいの時間を無駄にしてしまっていた。切羽詰まっていた時に愛媛大学の前田眞先生のご指導で、付箋にどんどんアイデアを書いていき、そこからアドバイスをいただいた。初めにどのような問題があって、次にどうしていけばよいのか。その問題があるのならば、どこを直せばよいのかなど、的確なアドバイスをいただいたことにより、計画も進むようになっていった。

そこで私たちは萩莖まこと様からいただいた「はにがれ」の原画を10枚適当に選び、そこから主人公たちが話す内容や話の構成を考えていった。そのときに私たちが漫画の主人公になったつもりで女の子らしい言葉で考えるのも、担当教員の重松洋先生からいただいたアドバイスをもとに、一日目のうちに考えることができた。二日目でのプレゼン作りなどでは班員二人だけの作業になったが、一日目での失敗をもとに分担して作業ができた。実際に紙で簡単に作成したのぼり旗を発表のときに見せることができた。結果、中間発表会2位という惜しいところまで行くことができた。オリエンテーション合宿を通じて、計画をしっかりたてる計画性、それを行動に移す実行性、アイデアの出し方など、周りの人からのアドバイスで「こんな考え方があったんだな」と実感することができた。

OR合宿で理解したこと、できるようになったことを、実践活動でどのように活きましたか？

実際に行動してみて分かったこともあり、そのときはすぐに自分たちでどう改善したらよいのか考えた。ゴミを拾いに行った時も、ゴミを拾う係、ゴミを測量し分析する係に分かれて活動した。そのアイデアも緑地公園へ行く途中に考えるなど、活動がスムーズに動けるようになってきた。自分たちが気付いたことはその場で共有するようになった。学校へ戻りグラフに打ち込むときも「このゴミが減ったね」や「今日ゴミを拾ったときに、たばこが多かった。工事の作業をしている人がいたから、たばこが落ちたのかもしれない」など結果や考察も話し合えるようになっていった。

また、緑地公園へ行って調べているときに、実際に掃除をされていた長浜婦人会の方と会うことができた。そこでインタビューをすることで、毎週ゴミを回収していることなどを聞くことができた。実際に町の人々の声を聞くことで、ヒントをもらえることもあった。このように周囲の人からの声を取り入れることで、調査がうまくいく気がした。そこで、私たちの活動に対する意見や感想を聞きたいというもあり、メッセージボードをのぼり旗の近くに設置した。オリエンテーション合宿での体験が力になっていると思う。



実践活動を踏まえ、今後、どのように社会・世界と関わり、より良い人生を過ごしますか？

ゴミを減らすことは簡単なことではなく、どうすれば長浜のゴミが減るのかを自分たちで考えあった。OR合宿の初めの頃は、自分たちに計画性が欠けていたが、活動を進めていくにつれて、自分たちで考えて効率的に進めることができるようになった。私たちの活動の目的は、「ゴミを減らすこと」に加え、「はにがれのぼり旗で長浜に観光客を増やすこと」でもある。実際1回目の調査から時間の経過とともに、ゴミは減っていった。

活動を続けていると、メッセージボードの励ましの言葉だけでなく、通りかかった地域の方から「みんなで食べて」とみかんをいただいたこともあった。メッセージボードに書かれた励ましの言葉や地域の方々からの直接の感謝の言葉、そしてゴミがゼロに近づいている状況に、自分たちに達成感や地域に少しずつ貢献できているんだなという気持ちが生まれた。もっと地域のために頑張ろうと班員全員が思った。

このゴミゼロプロジェクトに取り組んでいることで、自分自身も普段の生活の中で、自分が出したゴミは自分で処分することや、ゴミを増やさないようにするにはどうすればいいのかなど、環境について考えることが増えた。自分たちが取り組んでいるこの活動はSDGsにもつながる活動になっている。世界でSDGsという言葉が広がっている今、自分たちのこのゴミゼロの活動はまだ長浜での小さな活動だが、私たちのこの取り組みがどんどん広がって欲しいと思う。担当教員の重松洋先生や、原画を提供してくださった萩莖まこと様、私たちの活動に協力してくださった長浜の婦人会の方たちなど、たくさんの人と関わってこのゴミゼロの活動ができている。その方たちへの恩返しとしてゴミがゼロになって欲しい。また、人は増えてもゴミは増えない綺麗な海が広がる長浜のまちにしたいと思う。



私のサマリー (ほかの評価結果紹介)

個人部門



福島県立光南高等学校 酒井 美緒 さん

「綺麗に咲いている花を処分するフラワーロス問題から、少しでも生産者の力になりたい」「花の力を借りて、入院中の患者さんに笑顔届けたい」この二つの想いから今回の活動に取り組みました。当初立てた計画から工夫を重ね、多くの人に見てもらえるよう地域サポートセンターにドライフラワーやプリザーブドフラワーも飾っていただくこととなりました。地域の方とコミュニケーションをとっていく中で、「仕事」の在り方を学ぶことができ、自身も将来は患者さんを笑顔にできる看護師になりたいと決心した様子でした。

グループ部門

北海道日高高校 角田 航一朗 さん

「町内の面積の94%を森林が占める」日高町の素晴らしい大自然を生かして、地域の魅力を発信し、たくさんの観光客を呼べないか」という課題を設定し、グループで何度も話し合いを行い、自然を生かしたアクティビティを考えました。観光客に対して魅力を発信するためには自分たちが日高の自然の魅力を伝える必要があると考え、グループメンバー全員で日高町内を探索するなど、「自分たちの足で歩き、見る」ことを大事に活動に取り組みました。オリエンテーション合宿での学びを活かして、これからも日高町の魅力を発信し日高町全体を盛り上げていきたいと語ってくれました。



岩手県立雫石高等学校 福田 愛沙 さん

地元雫石町の魅力を多くの方に発信することを目的とし、2005年に雫石町から全国へ広まった「軽トラ市」というイベントでのブース出展を行いました。イベントに来てくださった方々に雫石町の姉妹都市である静岡県富士市の名産である「お茶」の販売と、雫石町のイメージカラーである「虹色」の手作り琥珀糖のプレゼントを行い、雫石町をPRしました。中でも、「琥珀糖のプレゼント」は1度目の軽トラ市の反省を活かし、グループ内で話し合い、試行錯誤しながら実行したことであり、あまりお茶になじみのない子どもたちが興味を持ってきて、雫石町を知ってもらうきっかけとなりました。学校以外の場で得た挑戦する勇気で多くの人に雫石町の魅力を知ってもらうことができた様でした。

石川県立宝達高等学校 荒井 優里 さん

自然環境に興味を持つ者同士がグループとなり、「石川県内の海洋プラスチックゴミの現状をたくさんの人に知ってもらう」ための実践活動を計画・実施しました。実際の方法としては、「小学生に海洋プラスチックゴミを学んでもらう」として、海洋プラスチックゴミについて学んだことをリーフレットにしました。グループワークの中で意見を言うことはあまり得意ではありませんでしたが、オリエンテーション合宿の中で意見を言うことの大切さを学び、積極的な発言ができるようになったと実感しています。今回の活動を通して、自分に自信をもつことができたのでこれからも様々なことに挑戦していきたいと語ってくれました。



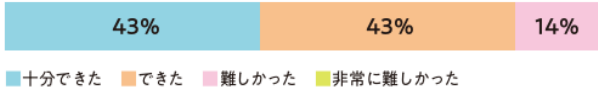


令和2年度実施状況

オリエンテーション合宿実施施設	10施設
オリエンテーション合宿参加者数	308名
実践活動報告書提出者数	162名
地域探究アワード地方ステージ出場者	94名(6ブロック開催)
地域探究アワード全国ステージ出場者	22名

全国ステージ出場者アンケート

オリエンテーション合宿は楽しく学ぶことができましたか。また、その理由を教えてください。



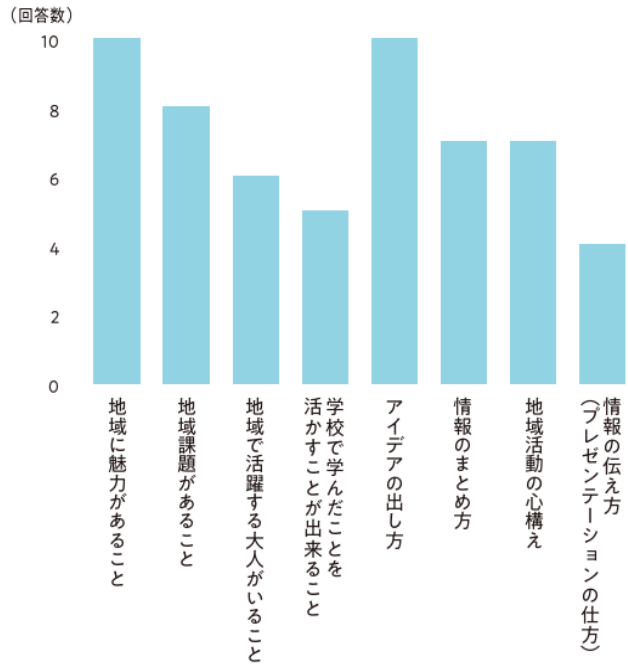
- これまでよく知らなかった自身の地域の魅力を発見することができた。
- 実践活動を行う上での協力者と出会うことができ充実した時間となった。
- 地域課題にしっかり向き合うことができた。
- 同じグループの参加者と協力して学びを深めることができた。
- 興味のある分野の第一人者の方から直接学ぶことができた。

オリエンテーション合宿の内容を実践活動に活かすことはできましたか。また、その理由を教えてください。



- オリエンテーション合宿の講師に協力いただきながら実践活動を実施でき、とても良い探究となった。
- 現地での活動に役立てることができた。
- 仮設を変更するにあたって探究の考え方を活かすことができた。
- 課題を発見するにあたって、オリエンテーション合宿の学びを活かすことができた。
- 課題解決のためにどのような実践活動が必要なのか、オリエンテーション合宿で学んだ多様な視点を活かすことができた。
- 自身の考えを周りに伝える際に学びを活かすことができた。

オリエンテーション合宿で学習したと思う内容は何か。(21名回答)



実践活動で学んだことを教えてください。

- 自分が生産者側となって行った実践活動だったが、1から作り出すことは大変だった。人から人へ想いをこめて行動することの大切さについて改めて気付いた。
- 他校の生徒と協力して活動する中で協調性の大切さを学び、自身の意見だけでなく協力者の意見も柔軟に取り入れることができるようになった。
- 地域を支えている大人と出会い、地域活性化の重要性を学んだ。
- 実際に地域に出ていくことで、地域課題を肌で感じる事ができた。

進路を考えるうえで、役に立ったことがあれば教えてください。

- 職業の意味や他者のために役立つことをすることの重要性を学ぶことができた。
- 人前で考えを述べることを経験したことで、コミュニケーション能力を身につけることができた。
- 興味のある分野の実践活動を行ったことで、進学したい大学を見つけることができた。活動を通してより学びを深めていきたいと思う。

学んだことを活かして、新しく挑戦したいことがあれば教えてください。

- SNSで自身の取組みを発信し、興味を持っていただけたら発送するなど活動を発展した形で継続していきたい。
- 地域の魅力発信のため活動をステップアップして活動していきたい。
- 実践活動の中で作成したパンフレットを実際に配布し、地域課題の普及を行ってきたい。
- 地域課題に関するボランティアに参加し、課題解決に貢献したい。



全国の 国立青少年教育施設一覧



① 大雪青少年交流の家

北海道 上川郡 美瑛町 TEL: 0166-94-3121

⑧ 赤城青少年交流の家

群馬県 前橋市 富士見町 TEL: 027-289-7224

⑮ 乗鞍青少年交流の家

岐阜県 高山市 岩井町 TEL: 0577-31-1013

⑳ 大洲青少年交流の家

愛媛県 大洲市 0893-24-5175

② 日高青少年自然の家

北海道 沙流郡 日高町 TEL: 01457-6-2311

⑨ 信州高速青少年自然の家

長野県 伊那市 TEL: 0265-96-2525

⑯ 曾爾青少年自然の家

奈良県 宇陀郡 曾爾村 TEL: 0745-96-2121

㉑ 室戸青少年自然の家

高知県 室戸市 TEL: 0887-23-2313

③ 岩手山青少年交流の家

岩手県 滝沢市 TEL: 019-688-4221

⑩ 妙高青少年自然の家

新潟県 妙高市 TEL: 0255-82-4321

⑰ 淡路青少年交流の家

兵庫県 南あわじ市 TEL: 0799-55-2693

㉒ 夜須高原青少年自然の家

福岡県 朝倉郡 筑前町 TEL: 0946-42-5811

④ 花山青少年自然の家

宮城県 栗原市 TEL: 0228-56-2311

⑪ 立山青少年自然の家

富山県 中新川郡 立山町 TEL: 076-481-1321

⑱ 吉備青少年自然の家

岡山県 加賀郡 吉備中央町 TEL: 0866-56-7231

㉓ 諫早青少年自然の家

長崎県 諫早市 TEL: 0957-25-9111

⑤ 磐梯青少年交流の家

福島県 耶麻郡 猪苗代町 TEL: 0242-62-2530

⑫ 能登青少年交流の家

石川県 羽咋市 柴垣町 TEL: 0767-22-3121

⑲ 三瓶青少年交流の家

島根県 大田市 TEL: 0854-86-0319

㉔ 阿蘇青少年交流の家

熊本県 阿蘇市 TEL: 0967-22-0811

⑥ 那須甲子青少年自然の家

福島県 西白河郡 西郷村 TEL: 0248-36-2331

⑬ 若狭湾青少年自然の家

福井県 小浜市 TEL: 0770-54-3100

㉕ 江田島青少年交流の家

広島県 江田島市 TEL: 0823-42-0660

㉗ 大隅青少年自然の家

鹿児島県 鹿屋市 TEL: 0994-46-2222

⑦ オリピック記念青少年総合センター

東京都 渋谷区 代々木 TEL: 03-3469-2525

⑭ 中央青少年交流の家

静岡県 御殿場市 TEL: 0550-89-2020

㉖ 山口徳地青少年自然の家

山口県 山口市 TEL: 0835-56-0113

㉘ 沖縄青少年交流の家

沖縄県 島尻郡 渡嘉敷村 TEL: 098-987-2306